

組織目標評価報告書（令和3年度）

部局名: **グローバル・ディスカバリー・プログラム**

部局長名: **上田 均**

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)	
①教育領域		教育領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
<p>1. 国内外の高校等に対するリクルート活動の継続やオンライン説明会の開催等を通じて、優秀な志願者の確保に努める。</p> <p>2. 2022年度入試について、各学部や関係部署と連携し、着実に実施すると共に、検証し、改善策を検討する。</p> <p>3. 国際入試を経て渡日する入学者に対して、関係部署と連携し、渡日前後の手続きについて十分なサポートを提供する。新型コロナウイルス感染症の影響により、渡日できない学生への学修等の支援を行う。</p> <p>4. 学生一人ひとりの学習状況を把握し、ディレクター、担任及びアカデミック・アドバイザーを中心に、適切なアドバイジングやサポートを行う。マッチング・トラックに進んだ学生については、各学部助言教員、卒業研究指導教員及びマッチング・アドバイザーで連携し、適切に行う。</p> <p>5. 学年進行に伴い、開講科目の充実を図るなど、カリキュラムの円滑な実施を図ると共に、卒業研究を実施し、第1期卒業生を輩出する。</p> <p>6. 理系志願者の増加に向けた取組を行うと共に、理系カリキュラムの見直しなどの検討を行う。</p> <p>7. 卒業後のキャリア支援の充実に向けて、関係部署と連携してサポートすると共に、卒業後の進路の把握に努める。</p>	<p>24-2 50-2</p>	<p>1. 広報・学生リクルート活動は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大の影響によりオンラインでの活動が中心となったものの、国内高校生対象にはGDP独自の入試説明会やオープンキャンパスを開催したほか、海外生向けには英語版の動画や学生による紹介記事をWebに掲載したり、オンラインフェアに参加したりするなど積極的に周知した。結果として、ディスカバリー入試には、文系・理系合わせて39人の出願があり(募集人員27人、出願倍率1.4倍)、全体の出願者数は昨年度44人からやや減少したが、理系出願者は6人増加した。3割がCEFR B2以上で英語能力の高い出願者で、留学経験者や国際バカロレア校出身者など多様な出願者が集まった。国際入試には、第1期の4月入学・10月入学にはあわせて28人、第2期10月入学にはこれまでに最多の64人の出願があり(募集人員33人、出願倍率2.6倍)、合計で昨年度より5人の増加となった。</p> <p>2. 2022年度入試について、ディスカバリー入試では、各学部や全学教育・学生支援機構から、問題作成や面接等の採点などの協力を得て、新型コロナウイルス感染症対策に注意の上追試験もなく着実に試験を実施することができた。実施後は、プログラム内での振り返りを行うと共に、入学予定者向けアンケートを行い、次年度学生募集要項への反映事項や実施面での改善事項を取りまとめた。国際入試では、今年度から国内外在住者にかかわらずSkype面接として、居住国・地域との時差等に注意しながら円滑に実施することができた。実施後は、多様な受験生に対する採点方法に関して、教員を対象に求める力や重視する点など調査を行い、次年度に向けた検討を行った。</p> <p>3. 国際入試を経て入学する2021年10月入学者に対しては、国際部と連携の上、留学ビザの取得や宿舍への入居、学生チューターの配置など受け入れ準備を進めていたが、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大の影響による政府の水際対策もあり新規渡日の留学生は全員渡日できなかった。学修支援としては、渡日できない学生に配慮しながら、オンライン授業を基本としつつ、一部の科目について対面とオンラインを混ぜた形式での授業を実施したほか、渡日できない期間が長期となったため、ディレクターや学生支援委員長からメッセージを発信し、学修面やメンタル面などのケアを行った。</p> <p>4. 在学生の学習・生活支援に関して、ディレクター、担任、アカデミック・アドバイザー、授業担当教員で連携したモニタリングを実施した。また、事務室にて各学生の単位修得状況資料を作成し、アカデミック・アドバイザーに情報提供を行い、履修指導に活用した。学部・学科横断型マッチング・トラックに進んだ学生向けには、マッチングアドバイザーを中心に、各学部助言教員や卒業研究指導教員と連携し、学部での学習をサポートした。</p> <p>5. 学年進行に伴い開講授業科目を増加させ、教育を着実に実施した。実践的な学びを重視し、海外留学については、現地での新型コロナウイルス感染対策などに注意の上「岡山大学短期留学プログラム(EPOK)」により12名を派遣したほか、4年生約60名のうち35名が本学の「高度実践者」として認定された。卒業研究に関しては、履修の手引の作成など概要等を決定し説明会を開催した。8月と2月には卒業研究発表会を開催し、9月卒業生15名、3月卒業生29名の第1期卒業生を輩出した。</p> <p>6. 理系志願者獲得のため、8月に新たに理系単独の説明会(参加者15名)を開催したほか、ホームページに理系特設ページを作成、学生の声などを掲載した。ディスカバリー入試では、理系出願者8人となり、昨年度より6人増加した。理系カリキュラムについては、農学部教員との意見交換会を開催するなどディレクター、理系教員を中心に今後の方向性など検討を行った。</p> <p>7. 卒業生の輩出に合わせて、社会文化科学研究科に本プログラム卒業生を対象とした「外国人留学生SDGs特別入試」を新設してもらい、9月卒業生2名が進学した。また、キャリア支援に関して、全学教育・学生支援機構キャリア支援室との連携を強化し、日本人学生への就職・進学支援に加えて、外国人留学生への支援として、日本での就職活動について1年次ガイダンス等において説明を行った。さらに、11月より英語での国際キャリアセミナーシリーズを新たに開始した。卒業生には、進路届を提出させ、進路を把握し、今後の広報資料などでも活用できるように努めた。</p>